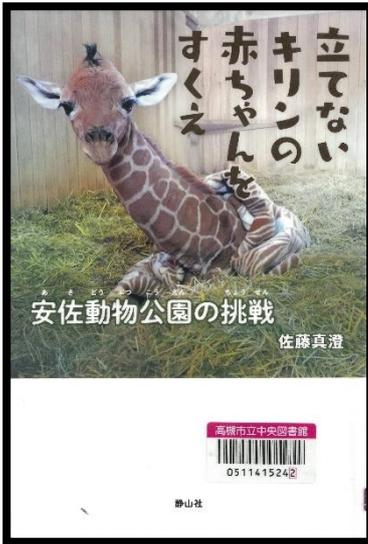


立てないキリンの赤ちゃんをすくえ

あさどうぶつこうえん ちようせん
安佐動物公園の挑戦

特集:2022年に出版された本



さとう ますみ
佐藤 真澄/作
静山社〔489〕

2020年4月9日、広島市安佐動物公園に一頭のキリンの赤ちゃんが誕生しました。しかし赤ちゃんキリンの後ろ足は、左右ともつま先が不自然な方向に曲がっていて、自分の力で立ちあがることはできませんでした。立つことができなければ、母乳を飲むことができず、生きていけません。

キリンの飼育担当、獣医師をはじめ大勢の人たちが、赤ちゃんキリンを立ちあがらせるために、試行錯誤しながら奮闘します。

彼の名はウォルター

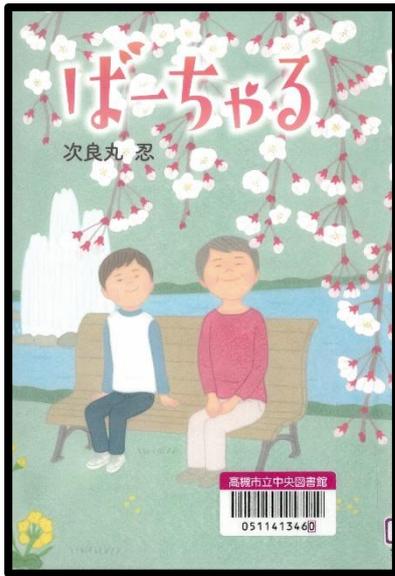


エミリー・ロッダ/著
さくま ゆみこ/訳
あすなる書房〔933ロツ〕

遠足の途中でバスが故障し、コリンをはじめとする4人の生徒と先生が、丘の上の古い不気味な屋敷で一夜を過ごすことになります。屋敷でコリンは文机に隠されていた1冊の本を見つけ、心ひかれます。表紙に「彼の名はウォルター」と書かれた、挿絵の美しい本には、孤児だった1人の少年の不思議な物語が綴られていました。

コリンたちは本を読み進めるうちに、物語がこの屋敷の秘密について書かれていることに気づき始めます。

ばーちやる



次良丸 忍/作

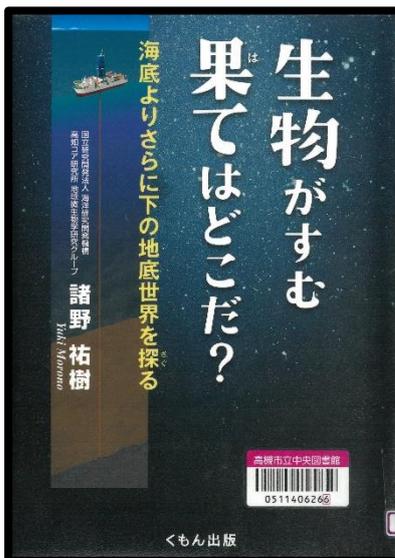
川上 和生/装画

金の星社[913ジロ]

母さんが会社から持ち帰ったのは、仏壇の遺影の未来型、最新機械「シップ」。スイッチを入れると、2年前に亡くなったおばあちゃんの立体映像‘ばーちやる’があらわれる。会話ができて、外に連れ出すこともできる。まだ開発中のシップに、写真や日記などおばあちゃんのデータを入力するのがぼくの仕事。データを入力すればするほど、より本物に近づきたい。ところが、あるデータを入力した途端、ばーちやるに異変が起きた。

人の心をもつ AI が開発されたらどうなるのか。近い将来、実現しそうな事態を想像し、考えさせられる1冊です。

生物がすむ果てはどこだ？ 海底よりさらに下の地底世界を探る



諸野 祐樹/著

<もん出版[468]

海底のさらに下の地層の中に生き物はすんでいるのでしょうか。

1950年代アメリカの研究者が太平洋の深海5千メートルの海底下7～8メートルの泥の中に、微生物がいるのを発見しました。これまで生き物はいないと思われていた場所での発見に、世界中の研究者は驚きました。2012年、日本は世界にほこる科学掘削船「ちきゅう」を使い、海底下2.5キロメートルの地層を掘りだし、その中から微生物を見つけました。

海底下のどこまで生き物がいるのか、すめなくなる限界はあるのか、この先の調査、研究が楽しみです。